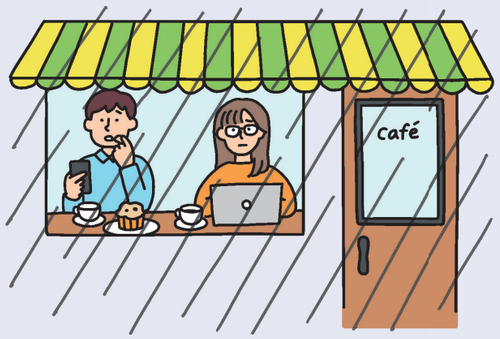
発生時に外出していたら

地下から高いところへ

地下は冠水によって浸水被害が発生するおそれがあります。より高く、安全な場所に避難しましょう。



台風は通り過ぎるまで待つ

建物の中に入るなどして通り過ぎるのを待ち、自宅にいる場合は外出を控えましょう。

アンダーパスは通らない

アンダーパスや地下道は冠水の危険性があります。地面よりも低い道は通らない、進入しないようにしましょう。

河川や用水路に近づかない

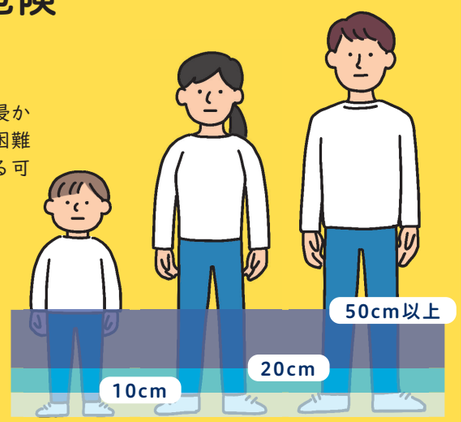
水があふれ、流れが激しくなりとても危険です。絶対に近づかないようにしましょう。

! 少しでも浸水していたら危険

10cm
にごった水で側溝などの位置がわかりにくく、転落する可能性があります。

20cm
水の流れが速いため、足をとられて転倒する可能性があります。

50cm以上
大人のひざまで浸かる程度で歩行は困難になり、おぼれる可能性があります。



浸水時は車で避難しない

車での避難はブレーキが効きにくくなったり、車ごと流されたりするなど、危険性が高まります。アンダーパスや川沿い、水田や水路の近くなどは特に危険です。

警戒レベルを確認！避難が必要な場合は…

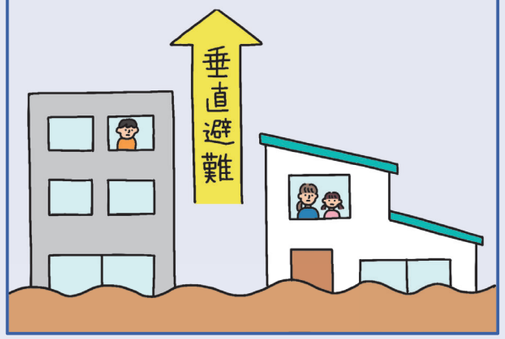
警戒レベルを確認し、命を守る行動をとってください。
もしもの場合を考え、状況に応じて避難しましょう。

外に出ると危険な場合

垂直避難

在宅避難

自宅の２階など屋内で安全な場所へ移動するのが「垂直避難」です。夜間で見通しが悪い時や、すでに被災している時、避難所への移動が危険な場合は垂直避難が適しています。



浸水のおそれがあり危険な場合

水平避難

自宅外避難

地域で指定されている避難所など、自宅の外にある安全な場所へ移動するのが「水平避難」です。災害が発生する前に避難することが原則で、被災までに猶予がある場合は水平避難が適しています。

避難のポイント

! 夜間の避難は危険
明るいうちに
避難しましょう！

ヘルメット
落下物から頭を守るため、専用のヘルメットを着用

リュック
持ちものはリュックに入れ、両手を自由に

長い棒
浸水時は足元が見えにくくなるため、長い棒で側溝やマンホールなどを確認

運動靴
長靴は水が入ると動きづらくなるため、歩きやすい運動靴を履く